

土木博物館の社会効果について ～中央構造線博物館の利用状況から～

信州大学（岐大連農） 正会員 細川容宏

1 はじめに

土木系の博物館が最近全国でつくられている。これらは、そのことを専門としている人々にとっては利用価値が高いものである。しかしながら、多くの土木系博物館は地域振興のための一手法として建設されており、特に過疎化の進む農山村地域ではその傾向が強いように思われる。その趣旨からも専門家でない一般の人々が訪れる目的は観光の一環であり、この場合に博物館の発揮する社会効果には、来館者が地域で消費する宿泊費や食事代などといった間接的な経済波及効果、その地域への来訪による知名度の向上による観光誘発効果、そして本来の効果である土木系知識の普及効果が考えられる。今回これらの効果のうち博物館で得られる知識の普及効果について、来館者に対し意識調査を行いキーワードの来館前後の認知率の比較を用いて、その効果について考察を行ったので報告する。

2 調査対象の概要

今回調査の対象としたのは長野県南部の大鹿村にある中央構造線博物館である。大鹿村は天竜川支川小渋川の上流域に位置する人口1,707人(平成5年10月1日現在)の現在も過疎の進行する農山村である。主たる産業は農業と建設業、観光資源は南アルプス登山と温泉である。南北に国道が、西に県道が走っているが、ほとんどが未改良区間で、この国道の南北それぞれの村界は冬季には交通閉鎖される。また、村を2分するように中央構造線が走りその露頭が観察できる。また災害が多発したことから建設省直轄による砂防事業が昭和12年から現在も続けられている。

このように地質と砂防事業との関わりが強い村は、平成5年8月に中央構造線博物館を建設省の協力により開館した。館内には、小渋川流域の地形模型、中央構造線の露頭面の標本の展示、岩石展示等の中央構造線に起因する地質関係の展示と砂防事業に関するパネル展示、ビデオ放映設備等の砂防事業関係の展示が行われている、地質・防災に関する博物館である。開館日は原則として水曜日、木曜日、土曜日、日曜日の週4日であるが、お盆は毎日開館している。入場料金は隣接する村の郷土資料館と共通で大人500円、小人200円である。

3 調査手法

夏休み期間の平成7年7月23日から平成7年8月27日までの間、博物館への来館者に直接用紙を手渡し、回収箱を設け回収して意識調査を行った。。この間の来館者数は1286人であり、回収数は601枚で回収率は46.7%であった。調査項目は表1のように22の設問である。今回、中央構造線博物館の地質・防災に関する知識・情報の普及を検討するための設問として、地名、地質用語、防災用語のキーワード17語を列挙し、設問15ではそれぞれについて来館前から認知しているもの、また設問17では同じキーワードについて来館したことにより認知したものを複数回答で回答を得た。キーワード17語は表2のとおりである。

4 結果と考察

得られた回答について、各キーワードごとに設問15の認知・未認知と設問17で認知・未認知との4とおりの組み合わせについて分類・整理(表2)し、この数値を用いて効果の評価を行った。この結果は図1のとおりである。この図の事前認知率は、有効回答数に対する設問15で認知した回答数の割合であり、効果認知率は、設問15で事前では未認知である回答者の数に対する、設問17で来館後に認知した割合であ

る。各キーワードについて、事前認知率の最大は「活断層」であり、これは阪神・淡路大震災による影響が現れていると考えられる。続いて、「地すべり」、「土石流」、「砂防」といった防災用語の認知率が高い。また、博物館見学後の効果認知率は、「中央構造線」が最大で続いて「活断層」「大鹿村」とグラフの下から上へと小さくなる。

事前認知率と効果認知率とを比較して、「中央構造線」、「昭和36年災害」、「大西山崩壊」、「鹿塩マイ叶」は効果認知率が事前認知率を上回っている。これらの全体的な特徴を見いだすために各キーワードをグループ分類し、その合計数により同様の比較を行う

と図 のようになる。この結果から、地質・防災の専門博物館としての普及効果より地域情報の普及効果が大きいことが言える。この結果は、回答者の来館目的、災害経験などの影響を考慮する必要があるため詳細な関連について検討する必要が別途あるが、総合的な傾向を表現していると考えられる。なお、意識調査の各設問との関連性については、当日発表したい。

表 1 調査項目

性別・年齢・会員・会員年数・理由・情報・目的・存在地
出身地・来館回数・同伴者・交通手段・経路・宿泊
来館前知識・印象展示・来館後知識・入館料・災害経験
災害内容・職業

表 2 キーワード認知の分類

KEYWORD	GROUP	SAMPLE	Q15	KNOW	KNOW	TOTAL	UNKNOWN	UNKNOWN	EFFECT	PRE KNOW
			KNOW Q17 KNOW	UNKNOWN A	UNKNOWN B	E=A+B	UNKNOWN C	KNOW D		RATIO G=E/S
① 中央構造線	地域	596	290	184	474	14	108	0.885	0.795	
② 活断層	地質用語	596	276	286	562	13	21	0.618	0.943	
③ 砂防	防災用語	596	182	309	491	76	29	0.276	0.824	
④ 大鹿村	地域	596	182	285	467	55	74	0.574	0.784	
⑤ 花崗岩	地質用語	596	150	332	482	95	19	0.167	0.809	
⑥ 露頭	地質用語	596	70	159	229	256	111	0.302	0.384	
⑦ 赤石山脈	地域	596	145	330	475	92	29	0.240	0.797	
⑧ 小渋川	地域	596	98	219	317	207	72	0.258	0.532	
⑨ 鹿塩マイ叶	地質用語	596	49	59	108	273	215	0.441	0.181	
⑩ 砂防ダム	防災用語	596	134	343	477	90	29	0.244	0.800	
⑪ 地すべり	防災用語	596	161	384	545	39	12	0.235	0.914	
⑫ 流路工	防災用語	596	21	80	101	416	79	0.160	0.169	
⑬ 土石流	防災用語	596	151	378	529	57	10	0.149	0.888	
⑭ 土砂災害	防災用語	596	131	340	471	108	17	0.136	0.790	
⑮ 急傾斜地崩壊対策工事	防災用語	596	63	151	214	307	75	0.196	0.359	
⑯ 大西山崩壊	地域	596	69	119	188	217	191	0.468	0.315	
⑰ 昭和36年災害	地域	596	98	167	265	160	171	0.517	0.445	
GROUP	地域	3576	882	1304	2186	745	645	0.464	0.611	
	地質用語	2384	545	836	1381	637	366	0.365	0.579	
	防災用語	4172	843	1985	2828	1093	251	0.187	0.678	

